

<尺骨突き上げ症候群>

尺骨突き上げ症候群とは、尺骨の長さが橈骨の長さに対して相対的に長いため、手関節の小指側に疼痛を生じる疾患です。

前回掲載した TFCC 損傷も上記の範疇に含まれます。

尺骨突き上げ症候群には先天性の一次性なもの

と橈骨短縮変形後の二次性になるものがあります。

突き上げ症候群になると手首にある月状骨・三角骨・尺骨頭等の軟骨摩耗・変性・骨内嚢腫の形成を生じる事があります。

症状としては手関節小指側の疼痛・ドアノブを回す動きの制限

TFCC 損傷による遠位橈尺関節（手首の関節）の不安定性が生じます。

3 mm以下の長さの違いであればドアノブを回す動きは比較的に

保たれていることが多いです。しかしそれ以上の場合動きが制限され

尺骨の動きが悪くなり手の甲側へ亜脱臼し著名に制限が出るよう

になります。診断としては、以前 TFCC 損傷を掲載時に行ったものと同様の

テストを行って頂くこと・レントゲンを撮影していただくと尺骨が橈骨より

長くなっていることがわかります。TFCC が損傷してないこともあります。

治療としては、基本的に骨アライメントの問題ですので尺骨の長さを

整える目的で尺骨短縮術が主に選ばれます。術後は骨がしっかりと

癒合するまではスポーツや負担の大きい動作をすることはできません。

そのためスポーツ復帰を目指す方は半年ほどかかります。

手術が主に選ばれますが、その時の状況によって薬物療法や物理療法で

患部の炎症を抑える事や、装具によって動作時の負担を減らすことも

できます。まずは、しっかりと病院で受診して検査をしてみてください。